

附『阿弥陀経要記』逸文補遺

【凡例】

- ① 散逸文献である永観撰『阿弥陀経要記』一卷について、「先行逸文」をもとに増補し、経文の順に従って整理した。
- ② 本文に用いた記号が示す意味は次の通りである。
 ≪≫…『阿弥陀経』所釈文、()…逸文の所在、※…当該逸文が逸文に類するものであることを表す、
 〰…原文での割註・細字、□…湮滅、S・K…直後の漢字に対する左訓、**i** (白抜きローマ数字) …逸文の範囲
- ③ 逸文を有する文献名は次の記号で表記した。なお、**Ⓜ**・**Ⓣ**は龍谷大学大宮図書館蔵本を利用した。

- Ⓐ 長西『法事讃疑芥』四巻²
- Ⓑ 空寂『法事讃要略記』二巻
- Ⓒ 道教『法事讃見聞集』(推定) 甲・乙³
- Ⓓ 良忠『選択伝弘決疑鈔』五巻(浄全七) 「末木・新井B」
- Ⓔ 道忠『群疑論探要記』一四巻(浄全六) 「末木・新井C」
- Ⓕ 良忠『法事讃私記』三巻(浄全四) 「末木・新井A」
- Ⓖ 良忠『往生要集義記』八巻(浄全一五) 「新井M」
- Ⓕ 良忠『浄土宗要集』五巻(浄全一一) 「末木・新井D」
- Ⓖ 道光『往生拾因私記』三巻(浄全一五) 「末木・新井D」
- Ⓖ 道光『大経抄』七巻(浄全一四)
- Ⓖ 持阿『選択決疑抄見聞』一〇巻(浄全七)
- Ⓖ 聖阿『浄土述聞口決鈔』二巻(浄全一一)
- Ⓖ 堯慧『阿弥陀経私集抄』三巻(享保二年刊) 「末木・新井E」
- Ⓖ 聖阿『二蔵義見聞』八巻(浄全一一)
- Ⓖ 聖阿『伝通記糅鈔』四八巻(浄全三) 「新井G」
- Ⓖ 聖阿『決疑砂直牒』一〇巻(浄全七) 「末木・新井F」
- Ⓖ 良栄『東宗要見聞』一〇巻(浄全一一)
- Ⓖ 聖聡『小経直談要註記』八巻(浄全二二) 「末木G、新井H」
- Ⓖ 加祐『法事讃私記私抄』三巻(浄全四) 「末木H、新井I」
- Ⓖ 恵空『阿弥陀経義要』四巻(宝永八年刊) 「末木I」
- Ⓖ 義山『阿弥陀経随聞講録』一卷(浄全一四) 「末木J、新井J」

*1 神奈川県立金沢文庫蔵書写本(【請求番号】九四一四一―一〇四)。

*2 神奈川県立金沢文庫蔵書写本(【請求番号】九三―三―一〇)。なお、撰者である入阿について、塚本善隆博士は鎮西義の敬蓮社入阿(一二〇三―一二八五)と考えられていたが(「金沢文庫所蔵 浄土宗学上の未伝稀観の鎌倉古鈔本」、『浄土学』(復刻版) 卷二「一九八〇年、初出は一九三三年」)、坪井俊映博士によって内容面より諸行本願義に属する入阿空寂のことであると論証された(「金沢文庫蔵 観経疏頌意抄著者入阿について」、『金沢文庫研究』卷六四「一九五八年」)。

*3 神奈川県立金沢文庫蔵書写本断簡(【請求番号】七五―六―一「甲」・二「乙」)。

- ⑤ 慧雲『阿弥陀経甲午記』二卷(真全六) 「末木K、新井K」
 ⑥ 法海『阿弥陀経丁亥録』五卷(真大四) 「末木L」
 ⑦ 月珠『阿弥陀経松江録』一卷(真全六) 「新井L」

なお、以下の江戸期文献からも逸文を検出したが、既存の逸文と重複するため採用しなかった。

- ・ 恵空『選択集叢林記』八卷：三文(真全一七 500 b 501 a、508 b、509 a)
 ・ 慶秀『持名鈔私記』二卷：一文(真大二八 170 b 171 a)

④ (一) 内の見方は、文献記号 ↓ 逸文所有巻数 ↓ 収録本頁数 ↓ 段数の順で示した。例えば「㊸-308 a」とあるのは、『小経直談要註記』巻一、『浄全』三〇八頁下段の意。また、「先行逸文」以降、新たに検出された逸文には「㊸」を付した。

⑤ 本文は、旧字を新字に、異体字を通行体にそれぞれ直し、適宜句読点を付した。また、返点・送り仮名は本文として採用した典籍に付されたものをそのまま記したが、「ア」「イ」「エ」等の略字は表記を改め、合符は採用しなかった。

⑥ 一つの逸文が複数の文献に確認できた場合、(一) 内の冒頭のものから本文を採用したが、原則として時代の古いものを重視した。ただし、一つの逸文において、古いものが逸文の一部しか有していない場合、一番多くの逸文分量を持つ文献を優先して本文とした。また、㊸は諸文献が断片的に逸文を有している都合上、複数の文献に見られる逸文を統合して一文とした。

⑦ 一つの逸文が複数の文献に確認できた場合、『要記』の本文に限り本文に採用した以外の他本で対校した。なお、「永観与之全同」などの逸文に類するものは、同内容が複数の文献に見られたとしても対校しなかった。

⑧ 対校にあたっては、「無」「无」などの異体字の相異、「アマタ」「阿弥陀」などの漢字カナの相異は対校しなかった。また、「々」(同字)は前の文字と異なる場合のみ対校した。

⑨ 対校で用いた記号が示す意味は次の通りである。

(一) 記号

↓…翻刻した本文と対校本との相異を表す、「」…文言の付加を表す

(二) 用語

無し…見出し語の文言が無いことを表す、註記…本文に対して記された註を表す

⑩ 対校本が、和語あるいは著しい取意の文であった場合、対校しなかった。

⑪ 逸文補遺は、基本的に「先行逸文」に加上する形で行ったが、出拠は一々確認し、頁数等に誤りがあれば訂正した。また、「先行逸文」が挙げる出拠のうち、採用しなかったものがある。番号と不採用の理由を以下に示す。

※⑭⑮中…末木博士は挙げるが、解釈論であり引文ではないため。

※⑯⑰下…末木博士は挙げるが、『法事讚私記』の註釈であり引文ではないため。

※⑱⑲738…末木博士は挙げるが、「已上禅林要記取意」と割註があつて文言が大きく異なるため。

※⑳㉑下213…末木博士は挙げるが、所釈であり引文ではないため。

※新井氏は㉒四82「要記云戒定慧三学各有貪慢二虫(云云)」(七一頁)を逸文として挙げるが、当文は直前に「持犯」とあり、元曉撰『菩薩戒本持犯要記』(『大正蔵』卷四五・九一八―九一九頁)の取意文と考えられるため。

【逸文補遺】

①《題号(仏説阿弥陀經)》

永觀アミタ經要記云、弁題目者、梵云仏陀槃遮アミタ修多羅、此云覺說無量壽經。今梵漢並存故、云仏説アミタ經(文)。(A二3左、圈)

②《同》

※仏説アミタ經義疏云(并序)、西湖靈芝崇福寺釈(元照述)。一乗極唱終歸咸指於樂邦。万行円修最勝。独SヲスK推於果SスK号。良以從因建願SヒマK康志躬行、歴塵点劫懷濟衆之仁。无芥子地非捨身之処、次正釈文□又二。初釈経題、二釈経文。初中此本名称讚不可思議功德一切諸仏所護念。総十六字経字為通題、上十五字為別題「上八字属教。即経所説依正莊嚴、称名往生、皆是ミタ修因感果威神願力不思議功德也。下七字属機。即依教起行専修成業、衆聖冥加撰持不退直至菩提也。契師唐訳即用本題云称讚浄土仏撰受経。語雖少異、義意大同。对之可見。今経秦訳隠略本題。在六方仏後即下云汝等衆生当信是等、拋宗取要別建此題、略有五意。一則上符経旨。經中唯示持名方法、故取仏名用標題首。二則下適機宜ミタ名号衆所樂聞故用標題、必多信受故。三理自包含但標仏名、称讚護念任運自撰故。四義存便易梵号兼含、耳聞淳熟故。五語從簡要、後世受持称道不繁故(文)。(源信永觀与之全同)。(A二6右左、圈)

③《分科》

※台云、自如是我聞一至諸天大衆俱一序分也。自爾時仏告一至是為甚難一正宗分、自仏説此経已訖経一流通分也(取意)。照云、次釈経文、大分三分。初至大衆俱一為序分、二爾時仏告下至是為甚難一為正宗分、三仏説此経下至末文流通分(文)。暁、測、照、信、觀、皆如天台。(A二7右、B中53b、R一308a、①上本22右、①710b)

④《同》

但永觀要記云、此経有証信无發起。若依浄影意、以一時已下可云発起序(取意)。(A二8左、圈)

⑤《序分、無問自説》

觀云、法花経□、无有人請而自説者。猶示如来大悲能至、機動即説不待他請。肇云、真友不待□如慈母之超嬰兒(以上)。(A三5右左、M上6左、①上本23左)

⑥《舍衛国》

觀云、金剛疏云、真諦云、彼国正音、応云奢羅摩羅死底。此云好名聞国。昔有仙人有好名聞一国以名也(文)。旧翻為聞物国。遠聞諸国故(文)。(A二9右、圈)

⑦《祇樹給孤獨園》

觀云、又涅槃経云、祇陀長者自造門楼、須達長者七日之中成立大房、足三百間禅坊静処六十三所冬屋夏宮各々別異、厨坊泥室洗脚之処、大小清廁无不備足(已上)。在此勝処説故可取也(文)。(A二10右、圈)

⑧《長老》

觀云、内秘菩薩外現声聞位、高可崇故呼為長老也。又云、撰大乘論明身子是化(已上)。(A二11左、圈)

⑨《羅睺羅》

永觀、羅睺羅者、此云覆障。三蔵云、本是阿修羅名。若具翻之、応云障月仏子、又云宮生(略抄)(文)。(A二18右、圈)

⑩《賓頭盧頗羅隨》

觀云、賓頭盧頗羅隨者、性頗羅隨俗也。真諦三蔵云、翻為利根仙人、六性波羅門中一性也(已上)。(A二19右20左、圈)

⑪《迦留陀夷》

觀云、迦留陀夷者、迦留此翻時、陀夷名之為起。十八部疏云、迦留者累、陀夷者上。謂悉達太子宮時師也(文)。(A二20左、圈)

⑫《阿菟楼駄》

①処 A下に中略符号あり ②経□↓M①疏云 ③猶↓M①謂 ④肇↓M①肇
〔公〕 ⑤□↓M①請 ⑥超↓M①赴 ⑦宮 A「堂」と右傍註記

觀云、阿菟樓駄者、此翻為如意、亦云无貧。西明疏亦加二人。謂捺阿迦与難達羅難□阿也(文)。(A)二22右左、(圖)

13 《常精進菩薩》

觀云、以衆生常有諸苦、是故大士恒順濟拔。故言常精進(文)。(A)二24右、(E)中59 b 60 a、(R)二331 a

14 《仏告舍利弗》

永觀云、問云、何故不告菩薩。釈言、小乘之人不許有他方仏。今嘆陳之。是故告之。(已上)。(M)上18右左、(I)上末1右

15 《過十方億仏土》

智光往生論疏云、言俱胝者此為億也。那由他者當此間欵數也。世俗言十千曰万、十万曰億、十億曰地、十地曰經、十經為欵。欵猶是大數也。百千俱胝即十萬億。億有四億。一者十万、二者百万、三千萬、四者万万也。今億者即是万万也。為頭此義一舉那庚多(已上)。永觀要記在之。(M)上19右

16 《其國衆生無有衆苦》

永觀要記云、胎經言、蓮花生者非胎卵化濕之生。悲花言、化言不同。化生。又彼衆生相好端嚴常不老故無老苦。四大調和故無外病。三毒不發故無内病。壽命無量。SコトサラK故無死苦。俱会一处故無愛別離苦。正道大慈悲故無怨憎会苦。外受五妙樂。内饒七聖財。行則金蓮捧之。坐則宝坐承之。出則帝釈在。前。入則梵王從。後。味則百味希饒。服則名衣上服。相則三十二相。壽即無量壽命。階位自然進。行願念念增。不如此界貪著追求現受衆苦。故無求不得苦。又以淨土之五陰。故無五陰盛苦。彼土諸天功德莊嚴日日增盛。故無五衰苦。禪定智慧時時增進。故無退没苦。(已上)。(M)上21右左、(I)上末7右左

17 《七重欄楯》

永觀要記云、七重欄楯者此即地莊嚴。故論云、莊嚴地者、偈言宮殿諸

樓閣觀十方無尋雜樹異光色宝欄遍圍繞(已上)。(C)乙5右、(圖)

18 《七重羅網》

永觀要記云、七重羅網者此即空莊嚴也。故論云莊嚴虛空者偈言無量宝交絡羅網遍虛空種々鈴發響宣吐妙法音(已上)。(C)乙5右、(圖)

19 《七重行樹皆是四宝》

同要記云、七重行樹者十六觀中第四觀也。若欲広觀可読觀經(乃至)四宝者准下讚道是金銀瑪瑙頗梨也。稱讚云、四宝莊嚴金宝銀宝吠琉璃宝、頗胝迦宝妙飾間綺(已上)。(C)乙5右左、(圖)

20 《七宝池》

永觀要記略記義云、今云、思益經文等未必可証。由レ此可謂觀經為初心行者。水想觀次說瑠璃地。見水映徹作瑠璃相。觀門其便。理實彼土七宝為地。故花坐觀並雙觀經七宝為地。但今經說黄金為地。且拳勝耳(已上)。(M)中2右、(I)上末15右

21 《同》

※信云、問。觀經云瑠璃地、何故今云黄金。解曰、思益說未來須弥灯王仏国土、云閻浮金瑠璃為地。准彼思之、黄金不映徹。瑠璃非金色、彼土金色亦映徹。故俱得。又觀經云瑠璃地上以黄金繩雜廁間錯(云云)。一宝合成故亦俱名。私云、大經上云、七宝合成為地(文)。可合口也。永觀難慮心之義也。(A)三10右左、(圖)

22 《同》

或言、七中拳勝(永觀)。(V)上135 b

23 《上有樓閣》

要記云、問云、何故宝池中忽說樓閣。釈言、有以渡於階道。至于樓閣。故從便說、或彼樓閣多在島中。是故清淨覺經等說下処有浴池。遶仏講堂、或遶羅漢菩薩講堂。故知樓在三宝池(已上)。(M)上24右、(I)上末11右

- ①順↓②須 ②進↓③進(也) ③言↓④云 ④之↓⑤足 ⑤相↓⑥想
- ⑥其↓⑦甚 ⑦坐↓⑧座 ⑧觀↓⑨卷 ⑨島↓⑩嶋

②4 《大如車輪》
又永觀要記云、大如車輪、一相伝云、大者形也、以方円等は形也故(已上)。(◎乙6左、圈)

②5 《雨曼陀羅華》
觀云、法花疏云曼陀羅花者何。西明云天花名也。中国亦有之、其似赤而黃如青而紫如銀而紅(已上)。問。稱讚經說常雨種々上妙天花、今何唯言曼陀羅。今說一花是即略也。理実彼土可雨衆花故(文)。次文云盛衆妙花(已上)。(◎三11右、含圈、i) (◎中3左、i) (◎上末18右)

②6 《衣械》
要記云、法花疏云、衣械者、一義衣衿也。又天台云、衣械是盛器。形如函蓋而有二足。手擎供養(已上)。(◎中3左4右、①上末18左)

②7 《舍利》
觀云、有疏云、舍利者此云鸚鵡鳥、光記云、舍利鳥者舌身也。有云、口利鳥者鶯也(文)。(◎三13右左、圈)

②8 《迦陵頻伽》
※一云、迦陵頻伽者發妙音鳥、如余処說仏以伽陵頻伽音為衆演說。譬喻經中、阿育王問波斯匿王妹尼云、仏有八種音聲以何為喻。道人曰、仏音嚴妙无双无比。唯今海辺有鳥、名為羯隨。其頗有髻髻王即還曰、使人求之未復、得鳥旬日不鳴。王甚恠之時、有青衣莊嚴以大鏡者、鳥若於鳥見鏡中、影驚欣歡鳴。青衣旋之不得令鳥青衣、皇我能令鳥鳴。王言、汝能使鳥鳴、勉汝為夫人。即取大鏡懸之四面、鳥在中央四句見伴即使悲鳴。声甚哀和□□分之一。王意歡喜即發无上正真。宮中綵女凡千人亦發无上道意、從意從分遂信三宝。鳥之音声所發如是覽。於其真清淨妙音者乎。案曰、伽陵頻伽即名羯隨(文)。照与觀意同之。(◎三13左、圈)

②9 《五根(八聖道分)》

①雨↓(◎)①雨 ②言↓(◎)言[雨]↓①雨 ③羅↓(◎)①羅[花] ④今↓(◎)①[答]今 ⑤械↓①械[者] ⑥盛↓①盛[花] ⑦鳥 (◎)下(◎)中略符号あり ⑧量 (◎)下(◎)中略符号あり

永觀要記云、言五根、謂信精進念定惠也。初從出生善根一名根。後從難可魔伏一名力。七菩提分者、謂捨法、進喜、念、定、捨、輕安(善提此云覺分者支□)八聖道分者、謂正見正思惟正語正業正命正定正精進也(已上)。(◎乙7左、圈)

③0 《是諸衆鳥(變化所作)》
觀云、□故不説四念住等。有疏云、彼化生身然无体不淨等故、而不倒執淨不淨心故、不説身念。雖无苦受亦不樂執心到、不説念受。知心无常勵修修道、不説念心。知法无我无我倒、不説念法(是故不説四念)。不會造惡、无煩惱、説斷熾然、自勵諸聖道、不仮説修故(不説四勤)。定慧兼修、非恒散乱、五通報得、无劳如意。是故前三鳥音不説、又略举非鳥不宣(已上)。(◎三14右、圈)

③1 《同》
※恩云、智度論問云、淨土中諸仏有无量神力。何不但多化作仏処々說法、度衆生乃化作畜生、皆現樹木等說法也。答。若処々仏身衆生即不能信。謂為幻化也。心不敬重於道難入。所以不化作仏。又如本生經説。若菩薩作畜生身為人説法、人以希有故聞皆信受、又以畜生心真故不誑人聞則生信。又恐有情衆生、是欺誑故亦令无情、樹木而演諸法聞即受(文)。肇与觀同之。(◎三14左15右、圈)

③2 《彼仏光明無量》
觀云、問曰、諸仏功德齊等、何故ミタ光明殊勝。釈言、法報功德齊等、但化身仏多依本願有差別、以本願故此仏光勝。故願云、設我得仏、光明有能限量、不取正覺(文)。(◎三16右、圈)

③3 《彼仏寿命及其人民無量無辺》
永觀要記云、西明云、此即総、釈寿命億衆无量(已上)。(◎甲1左、圈)

③4 《成仏已來於今十劫》
禅林要記云、舍利弗阿弥陀下、次明成道。此文來者通衆疑也。疑云、彼仏寿命雖無量劫、必有尽期。若爾恐臨滅度後、為通此疑明

成道近。即顯未來化用也。〔已上〕。

〔P六 537 b〕

〔同〕

又要記云、今稱讚經云二十八大劫、双卷經云凡歷十劫、大阿彌陀經云二十小劫、平等覺經云二十八劫。然有大小不同者、宝崛云、如雜心說、六十四劫名一大劫。俱舍云、八十小劫為一大劫。依瓔珞經下卷亦明三劫。一里二里十里乃至四十里石、方広亦然。以天衣重三銖、人中日月歲數三年一劫。此石乃名一小劫。就小劫中自有二里二里乃至四十里也。二八十里石、方広亦然。以梵天衣重三銖、梵天中百寶光明鏡為日月歲數三年一劫。此石乃名一中劫。三有八百里石、方広亦然。以淨居天衣重三銖、即淨居天百寶光明鏡為日月歲數三年一劫。此石乃名一大僧祇劫。智度論、撰論等云、〔乃至〕四十里城滿中芥子、不概令平百歲人取芥子一尽、名一大劫。望瓔珞經、即是彼小劫〔略抄〕。說大小劫得名不定、望大名小、望小名大。〔已上要記〕。

〔I五 140 a、圈〕

〔於今十劫〕

要記云、聖主弥陀、十劫已來恒流正法。我等由障今日始聞、五内悲傷、特生恥恨。誰有々智者、今生不勵往生之事。噫撫胸、恥懺、誰不為指南。

〔B下 18 左、圈〕

〔成仏已來於今十劫〕

※慈恩、永觀為十劫歟。

〔A三 17 左、圈〕

〔其中多有一生補處〕

永觀要記云、問曰、彼土一生補處、若准此方為取无生。釈言、彼土非先処天、次必成仏。今一生者、十地究竟云一生也。〔已上〕。

〔C甲 3 右、M中 19 右、T下本 14 右〕

〔衆生聞者应当發願生彼国土〕

是故要記云、実雖大菩提心淨土正因、未代遇夫輒以難發。縱雖希發遇縁、使退。故仏願說淨土莊嚴、SシメテK令彼願樂一生大乘土發。

①曰↓M①云 ②必↓M①如 ③云↓M①之 ④近↓C①①近〔終〕↓R近〔臨終〕 ⑤經↓C①①①經〔対〕 ⑥終↓F①①終〔之〕 ⑦已↓D①①亡

⑧一↓F①①①一〔日〕 ⑨向↓L①心 ⑩方↓L①當 ⑪已上①①①に無し ⑫亦

菩提心。若不爾者、何得發心。豈不如來大悲願力。斯実發心之方便、未代之要行也。〔云々〕。

〔B下 21 右、圈〕

〔若一日七日〕

觀云、問曰、今說七日之行為近臨終為通尋常、積有兩解。一云唯近行、故感禪師云、觀經臨終者極少一念十念亦得往生。アミタ經対有命未盡經日始已、或一或二乃至終於多日能念仏名亦生淨土。无量壽經対長壽不死之者尽形壽一。向專念方得往生。〔已上〕。亦通尋常、問曰、若言通尋常者、七日之後遇縁作惡、豈得往生。如遺教經云、瞋恚之害破善法、又劫功德賊無過瞋恚。釈言、不爾。七日行後、設雖造罪而此行法決定業故、是人終時不顛倒、懺悔罪必得往生。或七日後、不遇惡縁以是大善威德力、一切諸仏所護念故、此解為勝。不爾便有尋常行中无定業過。〔文〕。〔A三 23 右、F下 76 b、L上 613 a、R七 396 a、C甲 五 右、I①①①①①五 333 a、①下本 32 左〕

〔一心不乱〕

明知、弥陀名号之中即含藏、無辺功德故、一心称念、成大善根。必得往生。如要記云、諸仏願行、成此果名。但能念号、具蒙衆德。故成大善。不廢往生。

〔B下 21 左、圈〕

〔臨命終時阿弥陀仏与諸聖衆現在其前〕

要記云、彼見聖衆來、歡喜勇猛。住喜受心、不待捨受、忽捨身命。是故經說、命欲終時、不説入命終。彼懷玉禪師、含咲而終、教信嚮瞷眼口似咲、若非喜受、彼何爾耶。〔已上〕。

〔E一〇 427 a、I①①①①①三 218 b、含圈〕

〔我見是利以下〕

※亦下引略記云、經曰、舍利、至生彼国土。下第二引証勸成、乃至故以証勸。此有五文。一以自証知見勸。二引他方仏説勸。三示現当利益勸。四举我為レ仏讚勸。五惣結勸進。此是初也。意云我以二仏眼觀、明見此勝利。故説彼因果。汝等勿有疑。〔禪林同レ之〕。

〔S下 204 b〕

↓C①①①①①〔二二云〕亦 ⑬曰↓R云 ⑭破↓E①①①破〔諸〕 ⑮此↓T斯

⑯人↓T人〔臨〕 ⑰時↓D①①①①①時〔心〕 ⑱倒↓T①例 ⑲悔↓D①①①①①悔〔滅〕 ⑳以是↓T是以 ㉑德↓L①德〔之〕 ㉒一↓D①①①①①〔故〕 一 ㉓爾

44 《同》

觀云、明往生証此文來者、為斷疑生信証誠一之。於中有二。一明自証、二明他証（文）。（A三24右、E下78ab、M下9右、R七401a、D下本42右）

45 《若有衆生聞是說者应当發願生彼国土》

觀云、若有衆生等、次勸願因。■唯勸願、舉初略後具足、応云願行俱勸。■故称讚云、一切皆心。注意發願、如說修行生彼国土（文）。

（A三24右左、含圖、i）B下24右、i）D下本42左）

46 《同》

故永觀要記云、第二正勸願（乃至）故大經說三輩之人發菩提心（已上）。

（C甲3右、圖）

47 《各於其國（六方諸仏）》

又永觀要記云、各於其國者、第四明国土。■称讚經云、住在各^④方自仏浄土（已上）。

（C甲7右、含圖、i）A四1右、E下80a、R八401a、D下末2左）

48 《出広長舌相》

觀云、明^⑥化証。是卅八願中第十七願也。■此有二師。一云引例証、謂非我嘆彼仏依正勸物往生、亦六方諸仏皆悉勸發称揚讚歎、各從其土往生彼國。若爾何故現広長舌当信此經。豈非現瑞。釈言諸仏各於其土說此經時、現瑞說法何有不可。二云現瑞証、謂十方仏恐畏衆生不信釈迦一仏所說、即共同心同時各出舌相、遍覆三千世界。証誠美言、汝等衆生心信受釈迦所說。■若爾此会大衆見聞彼事、是義難知。今試釈之、發記影向^④必応見聞、当機結縁隨宜不定。■或仏神力故四衆俱見。①（A四2左3右、含圖、i）①上410b411a、ii）B下26右、⑤五914b、iii）F下81b、R八403a、①下末9左、iv）C甲7左、⑤五318b、v）E242a、①748a）

49 《同》

觀云、問曰、諸皆現舌相讚ミタ徳、何故釈迦不現此相。是義難解一。但現瑞說法多隨機宜耳、何必一切皆悉齊等現。復此經略去別序、瑞相

耶^⑥に無し

①願↓B①願〔者〕 ②注意↓B信受 ③云↓①言 ④各方↓E本本土 ⑤方〔王〕と右傍註記 ⑥化〔他〕と右傍註記 ⑦遍↓R編 ⑧証↓B①⑧

有無暗以難知。

（A四4右、C甲7右、圖）

50 《同》

※散善義云、又十方仏等、恐衆生不信釈迦一仏說、共同心同時舌相遍覆三千、応信是釈迦所說所讚所証（文）。（永觀如成之）。（A四5右、圖）

51 《汝等衆生》

觀云、汝等衆生等者、第七明勸進。若爾此文為彼仏勸。為此仏勸、称讚經云、及十方諸仏世尊為欲方便利益安樂諸有情。故各住本土現大神變發誠諦言、勸諸有情信受此法（已上）。天台云、六方諸仏皆悉勸發称揚讚嘆。恒河沙數仏各於其土往生彼國（已上）。明知、此文彼仏勸進。有云、此文未必指一々方勸信文、義記亦爾。故六文是今仏觀。今云、若非指一々方、何云六方。義記釈炳然、勿曲会私情見。（A四4左、圖）

52 《一切諸仏所護念經》

又永觀要記云、金剛疏云、問。諸仏護念有何利益。答。猶□魚子母念、即成不念即壞。菩薩亦爾（已上）。

（C甲10左、圖）

53 《西方世界有無量寿仏》

禅林疏云、問曰、无量寿者、為今所說極樂化主。■有云、多有同名阿弥陀^⑥仏（文）。■今云、是義難知。設雖^②化主証明^③何失。■為^④引衆生^⑤稱揚^⑥自徳^⑦諸仏^⑧常途^⑨也。■而^⑩弥陀^⑪自証明^⑫何非便^⑬乎。■乃至引通讚^⑭。釈迦自讚散^⑮在諸經^⑯。於^⑰今經^⑱一釈迦說^⑲行^⑳能難事^㉑得^㉒菩提^㉓明^㉔此浄土法門諸仏称讚^㉕。是豈非^㉖釈迦自說^㉗哉。為^㉘利生^㉙故何成^㉚失。弥陀自証例而可知。①（A四7右、圖、ii）E下83a、R八405a、iv）vi）D下27左、i）D下末15右、i）V下16右、X181b）

54 《無量寿仏》

※通贊卷二、若弥陀自讚、猶理何違。引轉衆生令生勝意（已上）。

（C甲8ウ、圖）

55 《無量寿仏》

說 ⑨生↓B①⑧生〔皆〕 ⑩說↓B說〔□所讚所証〕↓①〔所讚所証〕↓R說〔所証〕 ⑪爾^⑫に無し ⑬「是…或」二五字^⑭に無し ⑮向↓F響↓①① 嚮 ⑯必応見聞↓E①二衆見彼土舌相 ⑰見↓R見〔群疑論云親相聽言則此

本朝永觀澄憲、同以三智論、弥陀云西方極樂教主云云。(◎九21a)

⑤⑥ 《已發願》

觀云、今由唯發願①得生者、今文略也。故稱讚云、如說行者、一切定於阿耨菩提不退轉、一切定生極樂世界(已上)。又撰論云、由唯發願②便得往生安樂③世界、是別時意(已上)。若爾復由唯有行往生淨土、亦別時意(已上)。(A四6左、E下85b、R八409b、i) (◎三519a、i) (Q二272a)

⑤⑦ 《是諸善男子…三藐三菩提》

觀云、次勸願也。若爾由自願力亦可生余淨土。何故唯勸極樂。積意極樂自他二願相成、謂自願為因、願為緣、因緣和合。是故偏勸。於余淨土□□必然故々不勸進。(A四11右、圖)

⑤⑧ 《稱讚諸佛》

林云、問曰、前說積迦唯讚ミタ功德。今云、何言諸佛功德。故稱讚經云、稱揚讚嘆无量壽佛。涌者不同、傳親異。然什公善解、泰言、如得經直前後極樂依正功德。是故唯是讚嘆ミタ。次六方段具說諸佛長舌瑞相、次復聞諸佛名得不退轉。故此云稱讚諸佛、略本經文、豈是非功(文)。(A四11左、圖)

⑤⑨ 《舍利弗當知(分科)》 難信之法是為甚難

禪林寺云、舍利弗當知下第四自結成述三諸佛讚言遠結成。往生願行也。無數劫中、出出世難。設難出世、出惡世難。設出惡世、說此法難。故云甚難。無量生中受人身難。設受人身、值此經難。設值此經、信心亦難。故云甚難。適遇此等緣、豈不信行哉。稱讚經云、若善男子善女人聞說如是極難信法、能生信解、如教修行、當知是人無量佛所曾種善根。是人命終、定生極樂。(E下87a、R八411a、i) (E下33右、O756b757a)

⑥⑩ 《五濁》

觀云、言濁者是不情義、譬如濁水不知見物、眾生心濁不見淨土、故名濁也。

義也) ⑬諸↓◎諸(仏) ⑭仏 ⑮⑰に無し ⑱引↓B利 ⑲而 ⑳に無し ㉑自 ㉒に無し

①□↓E Q而 ②便得◎に無し ③世界◎に無し ④已上◎に無し ⑤涌

法花玄云、所言五者煩惱與見此正是濁。此二所成名眾生濁。即此眾生連持之命名為命濁。此四種時謂劫濁也。問曰、何故五濁之中不說業濁。法花疏云、毘尼母經云、亦說業濁沒於見濁、屬煩惱濁。今明即眾生濁是業濁也。所以然者、既有煩惱起身口意惡業、故名業濁。何以知然。若但意地有諸煩惱不起身口業、非惡眾生、不□□生濁也。故知眾生濁即是業濁(已上)。(A四12左、圖)

⑥⑪ 《難信之法》

※難信之法者、慈恩疏云、謂一日乃至七日念仏、即拔三玄沢、高昇淨境。微因著果、俗情難信。人恐如來引接語。故云難信之法(已上)。肇公、禪林同レ之。(E下86b、R八410a)

⑥⑫ 《流通分(分科)》

觀云、仏說此經已下大段流通分也。經宗所量文別有二。初明流通人無菩薩者、准前序分、舉初後眾略去中人後明流通相。既信受聖分、豈不弘通乎。(A四13右、圖)

⑥⑬ 《不明(唯除五逆誹謗正法)》

禪林要記云、感法師出二十五家、一々不用而自釈。(E六286a)

⑥⑭ 《不明》

阿彌陀經要記(今家)云、又試釈云、有与奪二義。若与言之、本願中除十念以後造五逆者、一念惡心滅諸善故。觀經中取下造逆以後具十念者、一念能消億劫罪、故依此義。故十念願通尋常臨終。若奪言之、本願中說欲生十念、不說此稱名、下生中說稱念仏名、具足十念。所說既異、相違何失。設無造罪、欲生唯願無行、豈生。欲生雖願、數々念之、行願具足。若契仏意、願得往生。(E下461a、i) (◎三520a)

⑥⑮ 《不明》

又永觀弥陀經要記、指第十二、四十六、聞法隨意願。彼要記云、問曰、何以得得知、弥陀說三乘法。答云、大論云、諸佛初發心時見諸佛、

①「論敷」と右傍註記 ②者 ③「說敷」と右傍註記 ④甚難↓B難信 ⑤行↓B受 ⑥根↓B根(也) ⑦經 ⑧「論敷」と右傍註記 ⑨指↓◎云 ⑩十 ⑪に無し ⑫云↓◎曰

以三乘一度衆生。自發願言、我亦當以三乘一度衆生。問云、若依
二本願說三乘、何故四十八願之中不明說。答云、第四十六願云、
設我得仏、國中菩薩隨其志願所欲聞法自然得聞。若不爾者、
不取正覺。問云、彼說三乘者、何論云大乘善根界。答云、彼土
雖說小法而以彼不究竟。故言大乘善根界。云云。

(◎二248 b、含圖、i、ii、◎九219 a、ii、◎九219 b、iii、iv、◎八531 a)

66 《不明》

要記《永觀》云、逆者十念不定可然。余者一念何為不定。是謬之謬
《已上》。

(◎八357 b)

①生↓◎生〔已上〕 ②云↓◎日 ③說↓◎說〔耶〕↓◎說〔乎〕 ④云
↓◎日 ⑤云↓◎日 ⑥云↓◎日 ⑦究↓◎說